

へいけものがたり おうぎ まと
 平家物語 扇の的

ころは二月十八日酉刻ばかんの事なるに、をりふし北風きたかぜ
にんがつ ころは二月十八日酉刻ばかんの事なるに、をりふし北風
 はげしう吹きければ、磯うつ浪もたかかりけり。舟はゆふね
しゆう はげしう吹きければ、磯うつ浪もたかかりけり。舟はゆ
 りあげゆりすゑたゞよへば、扇もくしにきだまらずひらおうぎ
だ りあげゆりすゑたゞよへば、扇もくしにきだまらずひら
 めいたり。沖には平家舟を一面に並べて見物す。陸には源げん
おき めいたり。沖には平家舟を一面に並べて見物す。陸には源
 氏轡を並べて是を見る。いづれもく晴れならずといふう
じくつばみ 氏轡を並べて是を見る。いづれもく晴れならずといふ
 事なし。与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、別してべつ
こと 事なし。与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、別して
 は我国の神明、日光権現・宇都宮・那須湯泉大明神、願わねが
わがくに は我国の神明、日光権現・宇都宮・那須湯泉大明神、願わ

くはあの扇おうぎのまんなか射いさせてたばせ給たまへ。これを射いそ
んずる物ならば、弓きり折おり自害じがいして、人に二ふたたび面おもてを
むかふべからず。いま一度本國ほんごくへ歸かえさんとおぼしめさば、
この矢はづさせ給たまふな」と、心のうちに祈念きねんして、目を見
ひらいたれば、風もすこし吹ふきよわって、扇おうぎも射いよげにこそ
なったりけれ。与よいち一かぶら、鏑かぶらをとってつがひい、よっぴいてひやう
とはなつ。小兵こひようといふぢやう、十二束三ぶせ、弓はつよし、
鏑うらは浦ほらひびく程ほどにながなりして、あやまたず扇おうぎのかなめ
ぎは一寸いっすんばかりおいて、ひいふつとぞ射いきつたる。鏑かぶらは海

へ入りいければ、扇おうぎは空へぞあがりける。春風はるかぜに、一ひともみ二ふた
 もみもまれて、海へきつとぞ散ちつたりける。みな紅くれないの扇おうぎの
 夕日かがやの輝なみくに、しら浪なみのうへにたゞよえひ、うきぬ沈しずみぬゆ
 られけるを、沖おきには平家へいけ、ふなばたをたゞたいて感じたり。
 陸くがには源氏げんじえびらをたゞたいてどよめきけり。